

1 学校研究主題

主体的に学び, お互いに認め合う子をめざして

～自他を大切にしている取組を通して～

2 学校研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標の「心身共に健康で、意欲をもって学ぶ児童の育成」の実現に向けて、教育活動全般を通して、確かな学力の定着と豊かな心の醸成を目指していく。

昨年度は、「主体的に課題解決に取り組む児童の育成」を主題として主に国語科と算数科に重点を置き取り組み、「伝える力」に着目し、授業に取り入れてきた。成果として、平成30年1月の児童アンケートでは、「『まず・次に・だから』を使いますか」という項目で74.9%、「『～ですね』と確かめていますか」という項目で70.6%、「指し示したり書き込んだりしていますか」という項目で82.2%という結果だった。伝える力を学期ごとに目標を設定し、教師も意識し指導を重ねることで、児童の意識も少しずつ上がり、力も付いてきた。しかし課題として、4月の全国学力・学習状況調査の質問紙調査での「自分には、よい所があると思いますか」では、「思わない」と回答した児童がやや多く、また「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」という質問でも、否定的な回答がやや多くみられた。そこで、児童一人一人が教室や職員室で色々な先生に算数科の問題について説明する『説明名人』に取り組んできた。その結果、児童が意欲的に発表する姿が見られるようになってきている。今後も継続して『説明名人』の技を使った取組を行い、児童の自己肯定感を高めていく必要がある。

そこで、今年度の学校研究の主題を「主体的に学び、お互いに認め合う子をめざして」と設定し、学びに向かう力を育てていくための指導方法の工夫・改善を図る。また、副題として「自他を大切にしている取組を通して」とし、道徳の授業を中心として、本校で低い自尊感情の向上や友だちとの温かい人間関係を育む環境づくりに努める。児童の実態に合わせ、短期・中期・長期的に課題を明確にし、指導の工夫・改善を行っていくことで、学ぶ意欲の向上と学力の定着に繋がると考える。

3 めざす児童像

- (1) 自分の学びや友だちとの学びに主体的に取り組む児童
- (2) 自他を大切にし、自分の姿をふり返ることができる児童
- (3) 根拠や筋道を明確に表現する力をつけ、活用する児童

4 具体的な取組

(1) 授業研究

①発問の工夫

- ・導入場面の工夫（実物や具体物の提示・レディネス）
- ・課題の工夫（焦点化・明確化・既習との違いからの困り感のある課題・必要感のある課題）
- ・ユニバーサルデザインの視点を生かした仕掛け（視覚化・共有化・焦点化・全員参加）

②学び合い

- ・根拠に基づいて自分の考えを書く。
- ・目的の明確化…どのゴールに向かうのか、そのために何を話し合うのか、自分の考えとの相違点や共通点はどこかなど。
- ・学習形態…グループ、ペア
- ・段階…話し合うことでの学び（深まりや広がり）

↓
確認することでの学び（自分の考えの構築や解決方法の確かな理解）

↓
共有した考えをノートにまとめる場の設定（思考の再構築）

③学びの実感

- ・「習得・定着」をねらいとした適用問題
「活用・応用」をねらいとした活用問題に取り組みせる。
- ・国語での言語活動（わくたま活動）
- ・まとめの工夫（キーワード・穴埋め）
- ・振り返り（分かったことの確認、疑問点の明確化）

(2) 学力・学習の基盤づくり

①学びの土台

★学習の構え 8 項目

学習の構えとして、「持ち物」「学習準備」「ストップの約束」「座り方」「ベル学」「授業はじめと終わりのあいさつ」「はいの返事」「天井挙手」の項目に、児童と教師が共通理解して取り組む。

- ・8の付く日（8日・18日・28日）は、チャレンジデーとして重点項目に取り組む。
- ・重点項目は、クラスごとの振り返りや児童の自己評価、教師の客観的見取りから達成率が低い項目を選ぶ。

②書く力の育成

★3文日記

毎日連絡帳や生活ノートに3文日記をかく。できるだけ国語教科書の巻末のいろいろな言葉を使わせ語彙を増やしたり、条件をつけたりして書く工夫を取り入れる。

★読む力をつける

- ・毎日の家庭学習での音読
- ・図書館司書との連携による並行読書の取組
- ・一斉音読（火曜スキルタイム前）

③基礎・基本の確実な定着と活用力アップ

★帯タイムを利用して基礎・基本の確実な定着と活用力アップを図る。

★毎日放課後に、学力調査問題や学力向上プログラム問題等の活用問題に取り組む。

★基礎・基本の練習

- ・朝自習…算数（形成プリント，ドリル），読み聞かせ・**低**読書**高**新聞（水曜朝自習）
国語（形成プリント，言葉のきまり，一斉音読，漢字練習，国語辞典）

活用力アップに向けた取組

前日：家庭学習で自力解決

スキルタイム：解説を聞いて直す。解説は注意点や解き方のポイントを指導する。

放課後：再挑戦して、クリアしてから下校する。管理職や級外も指導や採点に協力する。

※火曜日のスキルタイム前には、10分間の一斉音読に取り組む。

	月	火	水	木	金
家庭学習	活用問題				
朝自習 8:15~8:25	算数	国語	読み聞かせ 低読書高新聞	算数	国語 国語辞典
スキルタイム 13:50~14:00		一斉音読(10分間)	解説		
放課後	活用問題再チャレンジ				

★和倉検定

ローマ字（3年生以上）・漢字・算数で実施し、合格に向け強化週間を設けて全校で取り組み、学期ごとの基礎基本の学習内容の定着を図る。

④家庭との連携

★家庭学習

- ・全校的な「宿題忘れ0」への取組や家庭との連携等を通して、家庭学習の徹底を図る。
- ・毎月の宿題パーフェクト賞
- ・連絡帳や生活ノートの活用

★家庭学習を充実させるための自学

- ・毎日の家庭学習メニューに組み入れる。
- ①音読 ②活用プリント ③教科の課題 + ④自学ノート
- ・和倉っ子よい自学の日（担任以外の職員が添削・コメント、職員室前に展示）
- ・まねして自学（各学年のお手本コピーを展示・蓄積）

★音読

- ・毎日、音読を保護者に聞いてもらい、音読カードに評価やサインをもらう。

(3) 道徳の授業づくり

①発問の工夫

- ・アンケート結果の提示から主題へ繋げる
- ・普段の生活を振り返ることで課題意識をもつ
- ・資料提示の工夫（紙芝居・ペープサート・ビデオ等の映像資料）

②学び合い

- ・学習形態（ペア・グループ）
- ・役割演技による気づきや深まり
- ・ワークシートの工夫

③学びの実感

- ・自己評価や相互評価による振り返りの工夫（感想から気づきへ）
- ・多面的・多角的な見方、価値理解の深まりの実感

(4) 環境づくり

①児童会

- ・異学年交流（ふれあい給食、コスモステーリング、縦割り遊び）
- ・ありがとうの木
- ・思いやりあいさつ

②生徒指導

- ・構成的グループエンカウンターの出前授業

③学習の足跡

- ・学習履歴による学びの積み重ねや児童の変容の可視化

④無言清掃

- ・見つける力と考える力の育成

⑤道徳だより

- ・各学級の実践や学びの共有
- ・家庭との連携

《学校教育目標》

心身共に健康で、意欲をもって学ぶ児童の育成

《研究主題》主体的に学び、お互いに認め合う子をめざして
～ 自他を大切にしている取組を通して ～

〈めざす児童像〉

- (1) 自分の学びや友だちとの学びに主体的に取り組む児童
- (2) 自他を大切にし、自分の姿をふり返ることができる児童
- (3) 根拠や筋道を明確に表現する力をつけ、活用する児童

豊かな心

確かな学力

健康な体

授業づくり

①発問の工夫

- ・導入場面の工夫
- ・課題の工夫
- ・ユニバーサルデザインの視点

③学びの実感

- ・適用問題、活用問題
- ・言語活動
- ・まとめや振り返りの工夫

②学び合い

- ・根拠、目的の明確化
- ・学習形態
- ・段階

環境づくり

- ①児童会
- ②生徒指導
- ③学習の足跡
- ④無言清掃
- ⑤道徳だより

学力・学習の基盤づくり

- ①学びの土台
- ②書く力
- ③基礎・基本定着と活用力アップ
- ④家庭との連携

生徒指導の視点

- ①自己存在感・自己有用感
- ②自己決定
- ③共感的人間関係

